

図書 紹介

HACCP トレーニング・カリキュラム

著者：高鳥直樹（アース環境サービス㈱）

発行：㈱幸書房／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-17／

電話 03-3512-0165／B5 判／318 頁／価格 3500 円（税別）／2013 年 4 月 25 日発行

HACCP システムは、食品の安全性を確保するための予防的な製造管理方式で、今や世界標準となっている。また、食品安全マネジメントシステムである ISO22000 のベースにもなっている。我が国では、1995 年に改定された食品衛生法で、本方式を取り入れた総合衛生管理過程承認制度が制定され、乳飲料、乳製品、食肉製品、容器包装詰加圧殺菌食品、魚肉ねり製品、清涼飲料水について施行されている。

本書は、米国水産食品 HACCP アライアンスが講習用の教材として発行しているトレーニング・カリキュラムを基本にして、日本の食品衛生法や総合衛生管理製造過程との関係もわかりやすくまとめて解説されている。

- 第 1 章 講習を始める前に
- 第 2 章 HACCP とは何かについて
- 第 3 章 前提管理プログラム
- 第 4 章 準備段階
- 第 5 章 講習用品目について
- 第 6 章 ハザードについて
- 第 7 章 原則 1：ハザード分析
- 第 8 章 原則 2：重要管理点 (CCP)
- 第 9 章 原則 3：管理基準 (CL)
- 第 10 章 原則 4：モニタリング
- 第 11 章 原則 5：修正措置
- 第 12 章 原則 6：検証
- 第 13 章 原則 7：記録

次に各章ごとに「スライド」による説明の形式をとり、1 章は、本テキストについて、講習会配分例、受講生に望むことなどで、次章からは「この章で学ぶこと」にまとめられている。第 2 章は、HACCP の誕生、HACCP システムの適用、HACCP の 7 原則 12 手順、国際的な HACCP 導入の例、我が国における HACCP システム導入状況と課題など、第 3 章は、米国適正製造規範規則 (GMP 規則) について、GMP 規則と HACCP 規則、コーデックスの食品衛生一般原則、コーデックスの食品衛生一般原則と HACCP ガイドライン、

前提管理プログラムと総合衛生管理製造過程における一般的な衛生管理事項(10項目)、サニテーション管理手順(SSOP)の8項目など、第4章は、ステップ1:HACCPの編成、ステップ2~3:製品記述および製品の意図する使用法と消費者の特定、ステップ4~5:工程フローチャートの作成と現場確認などで、以下、「加熱調理エビ」を例にしてHACCPの7原則が解説されている。

第6章は、食品に関する生物的ハザード、HACCPで対象とすべき主な微生物、食品衛生上重要なウイルス、食品中の寄生虫、化学的ハザード、天然に存在する化学物質、意図的に添加された化学物質など、第7章は、ハザード分析の要点、(1)ハザードの評価を行う(evaluation)、(2)判断根拠を示す(justification)、生物学的ハザード、化学的ハザード、物理的ハザードに対する管理手段の例などである。

第8章は、重要管理点となる工程の考え方、ハザードを「予防」できるCCPの例、ハザードを「除去」できるCCPの例、CCPは製品ごと、製造工程ごとに固有などである。

第9章は、管理基準に関する情報の入手源、オペレーティング・リミット(OL)とはなど、第10章は、モニタリング手順のエレメント、何をモニタリングするのか、どのようにモニタリングするのか、いつモニタリングするのか、誰がモニタリングするのか、モニタリング記録に必要な事項などである。第11章は、修正措置の構成要素、構成要素の1:製品に対する措置、製品の処分の仕方を決めるための4つのステップ、製品の安全性を評価するための根拠の例、構成要素の2:工程に対する措置、修正措置の記録についてなど、第12章は、バリデーションの頻度、CCPに対する評価、校正の頻度に影響する要因、工程でのサンプリング試験、モニタリングにかかわる管理記録の見直し、消費者クレームの見直し、HACCPシステムに対する検証の頻度、最終製品のサンプリング試験など、第13章は、HACCPシステムで作成される5種類の記録と文書類などである。さらに米国適正製造規範規則(GMP規則)、米国連邦ジュースHACCP規則、コーデックス食品衛生一般原則、危害分析重要管理点(HACCP)システムとその適用ガイドライン、営業施設の準則、食品事業者等が実施すべき管理運営基準に関する指針(ガイドライン)も附則として添付されており、さらに索引をつけており、参考書としても活用できる。

本書は、良くまとまっているおり、今後のHACCPのテキストのバイブルとなると言っても過言ではない。気になる点は、関連するISO22000やFSSC22000の概要、前提管理プログラムにおいてPPやPRP、オペレーションPRP、PAS220、トータルサニテーション、7Sについての言及がないのは残念である(学会事務局)。